



発行所
セブ日本人会
5th Floor
Clotilde Commercial Bldg.
ML Quezon St., Casuntigan,
Mandaue City, CEBU
TEL: (032) 343-8066
FAX (032) 343-7663
発行人：櫻井絹恵
編集人：セブ日本人会
<http://www.ja-cebu.com>
info@ja-cebu.com

2016 年上半年報告

セブ日本人会 事務局長 田中研吾

櫻井会長新体制になってから早くも4ヶ月が経ちました。1月の総会ではこれまで費用のかかっていたセブ島通信の印刷を無くしインターネットでの配布に切り替えると言う三村前会長体制から引き継いだ懸案事項を会員多数の賛成で実行に移すことができました。これまで印刷代や配送代でかなりの費用がかかっていたため日本人会の運営を圧迫していました。その費用の一部を今後ホームページやFACE BOOKなどの充実により注ぐことが出来るようになります。結果ホームページやFACE BOOKへのアクセス数が劇的に増えました。3月には土曜市を新しい形で復活し約300人以上の来場者にお越しいただくことができました。反省することは当然ありますが新しいことにチャレンジする事により会員並びに在留邦人やイベントに興味のある皆さまに喜んでいただければと執行部一同頑張っています。その結果土曜市開催中に日本人会への入会希望者も数名ありました。当然新しいことばかりではなく3月は従来通り日本人墓地へのお墓参り(年2回)やタリサイ上陸の慰霊祭への参加を石田元会長の引率で行うことが出来ました。

更にセブ観音像にある銘板の文言を修復しました。数年前よりマルコポーロホテルの方より宿泊客の中には銘板についてクレームを受けることもあったそうです。いつもお世話になっているマルコポーロホテル様も今回銘板の文言を修復したことを大変喜んで頂いています。この作業には旧理事の神田様の尽力のおかげで立派な銘板に仕上がりました。

4月ではマニラ診療所より日本人医師を招き巡回医療相談も行ってこの活動は長年に及びます。セブ日本人会、並びにセブ日本人商工会議所の会員及びご家族の方であれば診療が受けることが出来ます。

その他にも力を注いでいるのは協賛店様の拡大で最近ではマクタン島の有名リゾートホテル様にも賛同を頂けることになり大変喜んでいただくとともに更に増やしていけるよう頑張っているとこであります。

また、8月12日13日には盆踊りがあります。今年から日本人会が主催になりこれまで盆踊り

の運営を行っていた日比交流委員会のメンバーと一緒に運営に当たりALL JAPANで盆踊りを成功出来ればと考えていますので是非運営に参加希望な方はご連絡下さい。

このようにいろいろな事が実現可能になっているのも日本人会会員様からのご紹介や旧理事並びに現理事に共感を頂いてる皆様方の協力がもたらして出来ていることだと常々実感しております。

先の熊本地震で被災された方への義援金を募る活動も始まり、日本人会の活動は多岐にわたります。セブ島でも以前大型台風の被害や地震などに見舞われました。最近聞いた話では交通事故に遭われる留学生や旅行者もあるようですが日本では災害事には自衛隊の皆様がすぐに駆けつけ復興作業や毎日の炊き出しなど行われますがセブには自衛隊の方は駐屯していません。交通事故など不慮の事故に於いても知り合いがいらない場合異国での交渉は非常に大変な事でしよう。日本人会がそれらの事を担っているのかもしれない。と言われればそれは無理な話ではありますがセブ領事館、セブ商工会議所などの連携や会員同士の助け合いなどによりみんなが安心安全な暮らしが少しは出来るのではないのでしょうか。

当然ですが会員以外の在留邦人の方にも同じようなことが出来れば一番良いのでしようが現在の運営状況は厳しくまだまだ難しい事が多すぎます。

現在セブ州における在留邦人は5000人とも言われております。最近増加傾向にある英語留学生を加えるとそれ以上になりますが、現在の日本人会の会員数は未だ2500-2600名と近年ずっとこのような人数でとどまっております。理由は近年インターネットの普及により様々な情報が簡単に手に入るようになりわざわざ会に入会しなくても良いと考えられる方もいることでしょうか、私が日本人会に入会したきっかけは子供が補習校に入学する時でした。それまでは特に日本人会には興味はありませんでしたがセブに長く住むに連れ会を通じて知り合った方々がいつの間にか人生の友になっていきます。今後也多岐にわたり活動が続いていきますので皆様のご支援、ご協力をお願いすると共に日本人会に興味を持って頂ける方のご連絡をいつもお待ちしております。

平成 28 年熊本地震により被災されたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。セブ日本人会では、被災された方々を支援するため、緊急募金活動を開始いたします。お預かりしました募金は、セブ日本人会でとりまとめ、被災地で支援活動を行う団体に直接寄付させていただきます。

支援金名称：平成 28 年熊本地震災害支援金
【受付期間】
平成 28 年 4 月 25 日（火）から 6 月 30 日（木）まで

【募金方法】

- ①日本人会事務所へ直接お持ちいただく（小切手可）

②口座振込：METRO BANK

Branch CEBU LAPU-LAPU
Account No. 185-3-18564279-9
Account Name JAPANESE ASSOCIATION CEBU, INC.
※ご入金後、日本人会事務所（TEL:032-343-8066）
送金内容のご一報をお願いします。

③ LBC での募金手順

1. LBC 支店で「Money Remittance」(送金)と申込んで下さい。
2. 送金用紙に以下のように記入してください。
【送金用紙の上部】: 送金者の氏名、住所、電話番号
【送金用紙の下部】: Arlinda Ycot c/o Japanese Association
Cebu 5th /F Clotilde Commercial Center,
M.L. Quezon St.,Casuntingan, Mandaue
City 6014 Philippines
TEL:032-343-8066
※必ず「Door To Door」を指定して下さい。
3. 送金金額と手数料を支払い、領収書を受取して下さい。
4. 日本人会事務所 (TEL:032-343-8066) に送金内容のご一報をお願いします。

以上の手順で日本人会に送金をすることができますのでご利用下さい。

寄付先：一般社団法人 フェニックス災害支援機構

※フェニックス救援隊は、平成 25 年台風ヨランダ発災時、いち早く現地に入り支援活動を行いました。

今回の震災に際しても既に現地での支援活動を開始しております。

＜フェニックス救援隊の活動方針＞

- ・助かった命をつなぐ活動
- ・食料、医療、心のケア
- ・支援の行き届かない被災地の支援
- ・現地のニーズとのマッチングを重視
- ・「現場を見て、聞いて、災害現場に合わせる」

皆さまからの温かいご支援をよろしく願いいたします。

タリサイ慰霊
安藤尚子

3月26日朝6時、タリサイの海岸に太陽が昇りうつすらと朝陽が差し始めました。海から上陸するアメリカ軍を待ち受けたであろう日本軍配備の方向に向き合うよう、準備した仏具を砂浜にセツトし口ウソク・線香に火を付けました。

響き渡るお経を聞きながら、ふと海を振り返ると、数隻の漁船が見えしました。あの船が漁船でなくアメリカ軍の鑑だったら……

当時、この沿岸には上陸を開始しようとするアメリカの鑑がぎつしりと停泊し、それを見た日本兵もフィリピン人も驚き、今から起こりうる戦火に覚悟を決めた事でしょう。

視線を戻すと、すぐ脇にあるアメリカ軍の上陸を記念するヌモニメントが朝陽に照らされ、シルエツトが浮かび上がっています。一瞬、像ではなく生きた兵士がいるような錯覚に陥りました。

はっ！と我に返り、供養のお経を手を合わせます。「日本のために戦ってくれてありがとうでございます。安らかにお眠り下さい。今の平和が続きますように……」

そんな惨事を知ってか知らずか、フィリピン人、地元住民らが海水浴を楽しむ姿を見ていると、71年前にこの地で多くの血が流された事など微塵も感じられません。

セブ島での日本軍戦没者は、およそ14,500名と言われている。

1941年12月8日、真珠湾攻撃と同時に日本軍はアメリカの植民地であるフィリピンに上陸を開始します。1942年4月にア

メリカ軍が降伏。
フィリピンで最も人口が密集したセブ島は、日本軍占領期は、重要な物資補給地点・軍事拠点となりました。
しかし、フィリピン奪回を狙うアメリカ軍は、1944年10月20日レイテ島に上陸。
12月5日ミンダナオ島に上陸、翌1945年1月9日にルソン島に上陸、3月10日にミンダナオ島に上陸し、次々にフィリピンの島を奪回していきました。
そして3月26日にはセブ島のタリサイ海岸にアメリカ陸軍が上陸を開始します。日本軍はレイテ島から退却してきた部隊も含めてアメリカ軍と交戦します。
4月10日、レイテ島からセブ島へ移動した第35軍司令官鈴木中将は、途中アメリカ機の攻撃を受け戦死。タボゴンには、陸軍船舶工兵400名(品田大尉)が駐屯していましたが、この部隊が、危険な海上輸送にあたり、減、海も空もアメリカの魚雷艇と飛行機に制圧され、第1師団も次の予定地ネグロス島への移動を諦め、セブ島で最後まで戦うこととなりました。
日本軍はセブ島を北上しながら地元ゲリラやアメリカ兵との間でゲリラ戦法で戦い続けました。しかし、兵力や武装で劣る日本軍セブ島はアメリカ軍に奪回されてしまいました。
9月28日、第1師団長片岡薫ら約500名がイリハンで投降し、セブ収容所に収容されました。
こうして、セブ島の戦いは幕を閉じました。



毎年、タリサイ市では3月26日をアメリカ軍タリサイ上陸記念日として式典が催されます。式典のタイトルからも分かるように、戦勝国アメリカ側の歴史史観によつてとり行われます。日本代表として石田元セブ日本人会会長も出席されます。

しかし、式典の規模は年々縮小傾向にあるようです。残念ながら今年の国旗掲揚はフィリピン国旗のみでありました。

今回、日本国旗の掲揚がなされなかった事は非常に残念でした。

その後、ブラザ・インディペンデンシア公園内の慰霊碑

関係者ヒンセント病院内の南方第14陸軍病院慰霊碑

戦没者供養をし、3月26日の慰霊は終了しました。

★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール：info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の1ヶ月前を締切として原稿を公募しております。

「大切な 未来を築く その権利」

～在外選挙の制度と手続きについて～



本年夏に参議院選挙が実施される予定です。
この機会に是非在外選挙人登録を！

在外選挙登録資格 ①満20歳以上で ②日本国籍を持っていて ③海外に3ヶ月以上お住まいの方

登録・投票は簡単です



公職選挙法の改正により2016年6月19日において満18歳以上の方(1998年6月20日以前の出生者)も登録申請できます



用意するもの



※申請書や選挙人証が海外・国内を往復するため2・3か月かかります ※選挙人証受取は郵送又は窓口での受取が選べます

代理で同居家族を通じた申請もできます。

申請者の上記書類と署名入り在外選挙人名簿登録申請書と申出書※、代理の方の旅券をご用意ください。
※領事窓口または総務省のホームページから入手できます。



在外投票は次の3つの方法から選択できます



外務省 平成22年5月に憲法改正国民投票法が施行されました。在外選挙人証をお持ちの方は国民投票にも投票できます。

詳しくは、在セブ領事事務所
TEL：032-231-7321 Mail: cebucoj@ma.mofa.go.jp または **外務省 在外選挙** **検索** まで。

次回が待ちきれない土曜市！

Gwapa! 真木恵美子

日本人会のみなさまこんにちは。
新しく入会しました真木と申します。今後ともよろしく願いいたします。

セブに暮らして丸3年。「土曜市」という催事があるのは聞いていたものの、初めて参加させていただきま
した。
私たちは Gwapa! という団体がビューティードリンクを提供することにしたのです。
ご存知の通り、Gwapa! というのはセブアノ語で「美人さん」。
女性のアンテナに触れるようなフィリピンやセブの魅力を発信して、留学や旅行に来てもらおう！という
目的でサイトを運営しております。(www.gwapa.jp)

主に女性をターゲットにしているため、「美」と「健康」をテーマにしたい！と考え、今回は「デトックス・
ウォーター」と「ビューティー・サングリア」を中心に販売させていただきました。
会場は緑に囲まれたプールがピースフルな雰囲気の IPI スポーツコンプレックス。
子供、カップル、グループ、ファミリーと老若男女が楽しめる空間。
プールで泳いだり、土曜市のプログラムであるアクアズンバでエクササイズしたり、出店ブースを回って
食べ歩きしたり。
この出店ブースも日本人が恋しくなるような内容が満載で舞い上がってしまうほど（嬉）！
日本の家庭料理から和食レストランで提供される物までお腹いっぱいいただいてしまいました（笑）
中でも手作りの大福！まさかセブで美味しい和菓子をいただけるなんて思っていなかったので驚きです。（J
センターのサンデーマーケットにも出店されているそうですよ！）



さて、今回の土曜市はイベントプログラムも盛りだくさん！ということで、私は司会のお手伝いをさせていただくことになりました。
まずはボランティア団体 DAREDEMO HERO さん・セブンスピリットさんの子供たちによる歌やダンスのパフォーマンス。
代表メンバーのスピーチはなんと日本語で、昨年日本に行った経験などをお話されていて子供たちの学習意欲を感じることが出来ました。
ボランティア活動に参加したことがない方にも貧困層の子供たちが教育を受けて夢や目標を持って活動しているのが伝わったのではないのでしょうか。

続いて餅つき大会。フィリピン人の来場者も興味深く参加されていました。
搗き立てのお餅が振舞われるとのことで周りにはたくさんのギャラリーが出来、美味しく召し上がっていただいたようです。

そしてズンバ、アクアズンバはウォーターフロントホテルのシティジムから大人気のインストラクターを
招いてのダンスタイムとなり、たくさんの方にご参加いただきました。
フィリピン人も日本人もみんな一緒に盛り上がり、一体感がありました（笑）

そして豪華景品が当たる BINGO 大会！！
今回はたくさんの協賛があり、魅力的な景品の数々にビックリの連続でした。
ボホール島までのセスナの遊覧飛行や、体験ダイビング、リゾートホテルの宿泊券、高級レストランのお
食事券などなど、もうご紹介しきれないくらいです。
これは殺伐とした空気になるのでは！？と司会をしながら興奮していましたが、一番最初にビンゴとなっ
た小さなフィリピン人の女の子が選んだ景品は、なんとお菓子！
とっても可愛い彼女の選択に微笑ましい雰囲気となりました（笑）
当選されたみなさん、おめでとうございました！（私も当たりたかった！泣）
今回は主人と1歳4ヶ月の娘、ベビーシッターさんとその息子（9歳）を連れて参加させていただきました。
シッターさんも息子のキアくんも餅つき等、日本の文化に触れてとても楽しんでいました。
次回 Gwapa! で出店をするかはわかりませんが、とにかく楽しめるイベントなので11月が待ち遠しくなっ
てしまいました。
セブには日本人留学生も増えてきているので、ぜひ語学学校の先生たちと日本の食文化やフィリピンで大
人気のズンバなどを一緒に楽しめる交流の機会にしてほしいなと思います。
（Gwapa! サイトでも呼びかけなくてはい笑）



今回参加されなかった日本人会のみなさまにも次回の土曜市でお目にかかれることを楽しみにしております。

フィリピン青年海外協力隊

川村俊一郎

先日、フィリピン協力隊派遣50周年記念式典がマ
ニラで行われました。私は、1990年1次隊隊員と
してフィリピン、レイテ島に学校隊員として派遣さ
れました。元々は、レイテ島でなく、その隣のサマー
ル島への派遣予定でしたが、任国フィリピンに着任
後、任地変更がありました。理由は当時活発化して
いたNPAの勢力下に任地が入っており、安全上の
理由からでした。丁度、現地語学訓練の前半が終わ
り、事前任地訪問の時期でしたが、私を含めて3名は、
マニラ待機になりました。当時の大使館横に某自動
車会社の駐車場があり、協力隊のドミトリイが丁度
目の前にありました。その駐車場の敷地内で、爆弾
が爆発、任地はどれだけ危険かと思いました。

語学研修ですが、前半2週間は、ワライワライ語を、
任地変更でセブアノ語を2週間、そんな状態で、任
地へ飛行機の切符1枚手渡されて、タクロバン空港
には先輩隊員が迎えに来ているということで真っ暗
な中、空港に向かったのを覚えています。

・・・行けども、行けども、ヤシの木とバナナとサ
トウキビが、どんな奥地に入っていく感じでした。
5時間ほどかけて、レイテの東海岸から西海岸に抜
けました。どこへ連れていかれるのか不安で仕方な
かったです。山の中を抜ける時には太陽は沈み、真っ
暗な中を走っていました。

派遣先に到着したとき、丁度、中間試験の終わりで、
校内で盛大なパーティを行っていました。そのパー
ティ会場に引き出されチャチャと一緒に踊ったのを
覚えています。派遣前研修で、語学以外にチャチャ
やティニクリンといったダンスも教わったことが役
に立ちました。

派遣先は、パロンボン工科大学で、電子機器、テレ
ビやラジオの講義と実習を行っていました。工学部
の3年生、4年生とOJTの学生を受け待ちました。
実習を行うにあたって、学部には電子機器や電気器
具を扱う工具や機器が有りませんでした。あるのは、
鉄鎚、のこぎり、マイナスインドライバー、ビデオやテ
レビもなく、どうやって実習を行っていたのか分かり
ませんでした。OJTの学生は、個人デスターを保
有し、それを使って町の人たちの電気製品を修理し、
日銭を稼いでいました。まずは、必要な工具を買い
そろえました。引き続き外部の修理を引き受けまし
たが、修理代金の一部を学部で預かり、その資金で
必要なものを補充するようにしました。学校側から
は、ボールペンとメモ用紙を無償でゲットし、授業
に來ている学生に無償で提供しました。ボールペン
は、ほとんど帰ってきましたが、

こちらの学校制度には、飛び級や、一般入試が英語
だけであつたりして、電子科の年生でも、算数がで
きない学生がいるのにも驚きました。トランジスタ
回路を説明するのにどうやって、比率を理解してもら
うか頭を悩ましました。学校以外に下宿先で算数（数

学まで行きませんでした。）の家庭教師をして、学生
のサポートを行ったりもしました。

学校へ物理的貢献は、先輩隊員が購入したオシロス
コップ等の機材が、配属策で使われていない為引き揚
げられた機材を任地の学校に寄付しました。それと
教材用にマニラのSONY サービスセンターに伺
い、10年以上未回収のビデオとテレビを10台ほ
ど無償で提供を受けました。また、バナソニックには、
新古のビデオ3台とテレビ3台を無償で頂きました。
この機材をマニラからレイテに移すのに、ジブニー
をチャーターして、港まで持ち込みました。3日間
の船旅でした。

この機材を使って有意義な実習を行うことができま
した。ただ、当時は電気の供給が安定しておらず電
気のない中、実習もできない時期があり体育館で卓
球をする時間も多かったと記憶しています。

1990年代は、バギオ地震、ミンダノオクーデター、
台風ルビン、湾岸戦争、ソビエト連邦解体、ピンツポ
山噴火、オルモック洪水等、個人的には、台風ルビ
ン後初めてセブを訪れた帰りの船が夜間に座礁、我
さきと救命胴着を確保する乗客、ただ啞然とそれを
眺めていました。91年6月デング熱にてパロンボ
ンからタクロバンに救急車で搬送され飛行機でマカ
ティ・メディカル・センターに、ピナツポ噴火によ
り任地に帰れず、船にてレイテまで3日間かけて戻
りました。オルモック台風Uring99年11月、
2日後、学校のトラックに生徒と水、食料を積み込み、
オルモックに向かうも、現場が近くなるほど、死体
を山積み、腐敗を防ぐためにブルドザーで穴に死
体を掘り込み、その上から土で蓋をする。こんな死
に方だけはいやだと思いました。波止場には、いく
つもの死体の山がありました。河川沿いに住んでい
る方が多く、事前連絡もなく、上流のダムを放水し
たため、台風の雨と重なり、鉄砲水地なりオルモッ
クに流れ込んだ大災害でした。

当時は地図もなく、手書きで被害地域を現地の人の
協力を得て作り、唯一電話があるイサベルに向かい、
そこからFAXでJICA事務所に地図を送りまし
た。

この台風URINGと湾岸戦争の影響でプロパンガ
ス、灯油・ガソリン等が町から消えてなくなり、停
電の影響で水も止まり、電気、水、ガス、が3か月
以上ない生活が続きました。水は井戸水を使用しま
したが、井戸により飲める水、体を洗う水、洗濯に
使う水等に分かれているのを初めて知りました。か
らだを洗える井戸で洗うとかゆくなるので飲料用の
井戸を使わせてもらいました。こんな中、一日中水
汲みをしていた時もありました。

2年と3か月の期間に何かを残したというより、ほと
んど天災と過ごした任期でしたが、学生、同僚の先
生や町の人たちに支えられ過ごさせてもらいました。
この中には故人となられた方もおられますが、世代
を繋げた相互理解と相互扶助の関係を担う一翼とし
て隊員皆様には日々を過ごして頂きたいと思ひます。

新日系人ネットワークで来日を支援する子供たち

新日系人ネットワークは、日本人とフィリピン人との間に生まれながら、親に養育を放棄された子供を支援する非営利法人として二〇〇六年二月より活動をしております。法的な手続きを行ったり、連絡の取れなくなった日本人親を探したり、将来、船員になるための奨学金制度への推薦など支援は多岐に渡っています。中でも来日を希望する人たちには、日本で就労先を探し来日をさせており、すでに母子を合わせると七百名余りを送り出しております。日本人親というのは、父親である場合がほとんどです。自分の子供を見捨てる無責任な父親という印象がありますが、実際には母親に問題がある場合も少なくなく、一概に父親が悪いということではありません。しかし子供には罪はなく、日本人として生きるチャンスは、本人が望むならば与えてあげたいと思いこれまで支援を続けて参りました。

フィリピン人の母親は多くの場合仕事がなく、経済的に困窮しているため、日本に行けば安定した収入を得られると安易に考えている人が多いのですが、そんなに現実には甘くはありません。私共は養育が必要で十八歳以下の子供については、母親と一緒に来日をさせております。子供は学校へ通い、母親は仕事をしながら子供を養育することを条件に滞在許可を得ています。しかし子供がすんなりと日本の生活に慣れることは簡単ではありません。子供が未就学年齢から小学校低学年くらいなら、一、二年で日本人と遜色なく日本語を理解するようにしますが、小学校高学年から中学生くらいになると、日本語習得も難しく、学校に馴染むことができずに不登校になるケースが多いのが現状です。不登校にならずに中学を卒業したとしても、普通の公立高校入学試験に合格するのは難しく、夜間高校や私立高校へ進学しますが卒業した子供は数えるくらいしかおりません。またはすぐに就労するケースも多いようですが、職種は限られております。中にはひどいいじめを受け、結局、フィリピンに帰国する子供もあり、来日したからといって必ずしも幸せになるとは限りません。私共はこのような経験を踏まえ、安易に母親の来日の希望を受け入れることはしておりません。年齢の高い子供には、フィリピンで高校を卒業し、ある程度の日本語を学んだ上で、子供だけの来日という道を勧め

めております。十八歳で来日しても、二十歳までは日本国籍取得のチャンスがあり、自らの国籍のことは子供自身が決めることが望ましいと考えています。

フィリピンでは家族がいつでも家におり、母親がいなくとも誰かしらが子供の面倒をみるというコミュニケーションがあります。日本ではなかなか難しいことです。小学校低学年の子供が学校から家に戻っても誰もおらず、母親が帰宅するまで一人で過ごさなければなりません。もちろん母親は仕事だけではなく、子供の面倒も見なければなりません。来日する前に、当事務所を訪れ「ありがとうございました。」と嬉しそうに挨拶に来る母親に対し、いつもこれからが大変なんだと言い聞かせておりますが、どれほどの母親が日本での生活の厳しさに覚悟をしているのかはわかりません。

十八歳になり子供だけで来日する場合も決してすべてがうまくいくわけではありません。私共で支援している子供の多くにみられる特徴として、自立していないことが挙げられます。来日前には必ず日本語学校に通ってもらいますが、遅刻や欠席を無断で繰り返し、数日後に何食わぬ顔でやって来て、欠席の理由を聞くと悪びれずに朝起きれなかったとか大雨が降っていたからと答えます。そんなことでは日本に行っても仕事はできないと支援を打ち切ると、母親がやって来て、日本に行けば大丈夫、うちの子供は優秀だから、と言います。何度がチャンスはあげますが、どうしても真面目に通わない、日本語の成績が悪い者は来日はさせないことにしていますが、昨今、送り出しをする機関が増えており、別の支援団体、もしくは送り出し機関から来日する子供もおります。

先日、すでに日本国籍もある成人男性を日本に送り出しました。見た印象では経済的に困っている様子はなく、相談に訪れた際には医大に通っているとのことでした。ただ本人が言うには、経済的には困窮しており、このまま医大に通い続けることは困難であるため来日し、学費を稼ぎたいとのことでした。日本での受け入れ企業は、人手不足が深刻な地方の企業が多く、長期の生活全面のサポートを条件に送り出しています。もちろん法で定められた労働条件は満たしていますが待遇面は決してよいとは言えません。そんなところで果たして働けるのかと何度も確認をしましたが、本人の「夢を叶えるために頑張ります。」という言葉を信じ送り出しました。しかし来日

して三日目にして、仕事がついと連絡があり、一週間後には無断で欠勤するようになりました。受け入れ先企業とも相談し、就労先を変えたりしましたが、未だに出勤することすらできずにあります。来日させたことを後悔しましたが、中には来日前の予想をいい意味で見事に裏切り、日本で生き生きと生活している子供もおりますので、そのあたりの見極めもたいへん難しいところです。

同じ日比混血児を育てている者として、やはり子供には望むチャンスを与えてあげたいと何度裏切られても、できる限り支援を続けていこうと思っています。(水野摩尼)

講師のつぶやき
中学一年担当 水野摩尼

私が中学一年を担当したのは昨年度からです。それまで小学一年生を担当していたので、授業といってもどんなことをすればいいのか悩みました。とりあえず小学校で習った漢字をすべて復習してみました。漢字一つに一つの読み方はだいたいできるのですが、他の読み方については、なかなか定着していないことがわかりました。思い起こしてみると、私自身、懸命に覚えた記憶はなく、普段の生活の中で自然に覚えてように思います。

普段の生活の中で、漢字になかなか出会わない生徒にとって、音・訓読みを覚えることはたいへんなことなのだ改めて感じました。それでも繰り返し問題を出していくと、少しずつ覚えてくれるところからも嬉しくなります。

また日本や世界で起こっていることなどもみんな考えながら授業にしました。授業の内容などを考えると、自らがまずは知らなければならぬため、いろいろなことを調べました。

今更ながら、初めて知ることも多く、授業の準備をしながら、自分の勉強にもなりました。

中学生という多感な年齢ですが、補習校の生徒たちはとても素直な印象を受けます。今年は「子供たちに伝えたいこと」をテーマにいっしょに考えながら共に成長していけたらいいと思っています。

セブ日本人会 協賛店一覧

■食材店
町屋マート

■ホテル・ビーチリゾート
ムーベンピックホテル (Movenpick)
アネモネリゾート (マクタン)
ルビリゾート (サンタnder)

■ダイビング・マリンスポーツ
アクア・マリンスポーツ
ブダンディン・マリン・ダイバー
アクアバディス
エメラルドグリーン・ダイビングセンター

マクタン店
サンタnder店
モアルポアル店

■飲食店
【マンダウエ市】
神楽 (和食)
らーめん野武士 (ラーメン)
オイスターベイ (シーフード)

【マクタン島】
だるま (和食)
空海 (和食)
夜桜 (和食)
マリバゴグリル (フィリピン料理)
花魁 (和食)

■飲食店
【セブ市】
遊々亭 (和食)
さっちゃん (お好み焼き)
タランバン店
悟空 (和食) マボロ店
ミッキーズ (ケーキ)
Q 兵衛 (和食)
Jazz'n Bluz (レストラン)
TYMAD BISTRO (フランス料理)
夢屋喜兵衛 (和食)
AMPERSAND (西洋料理)

■美容・健康
ワウ・セブ歯科医院 (歯医者)

■レジャー・スポーツ
セブトップ
(遊覧飛行、体験飛行)

■その他
Character Studio
(オリジナルグッズ)
誰でもヒーロー (ボランティア)
NPO Sevnsprit (ボランティア)

■旅する
フレンドシップツアーズ
KSB トラベル
AS レンタカー

割引き、もしくは特別サービス御座います。
必ず会員証をご持参ください

D' Tratou Cebu Translation & Travel Assistance



... 日英翻訳 ...

(横浜市立大学文理学部英文科卒 鈴木 了)

(Document Translator): Rio Suzuki [MEL in Yokohama City Univ.]

* 公文書/証明書(Official Documents / Certificates) * 契約書等(Contracts / Agreements)

* 仕様書/マニュアル(Business Technical Specifications)

... 遺族年金申請手続 ...

(Procedures for Pension Benefits to a Filipina family)

* Cedula, * BIR Cert, * Barangay Cert, * Child ID, etc.

(日本国での担当: 宮下尚之 社会保険労務協会(株))



Please feel free to inquire directly!

... 法律相談 ...

(Legal Advice & Assistance).

フィリピン国弁護士による諸手続・法律相談

(会社設立(SEC・DTI)(Mepz 含む) 養子縁組・離婚・その他訴訟)

(担当: 弁護士 ダニロ シノブハン 日本語できます)

◆ Inquiry: Cell: 0917-7171-839. Tel & Fax: (032) 263-0614

◆ Email: suzki@cebu@yahoo.co.jp ◆ Website: www.cebunet.jp www.mactanboy.com

広告掲載募集

★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール:info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の1ヶ月前を締切として原稿を公募しております。



セブの美味しい地鶏を食べに来ませんか?
Q-Bay Japanese Restaurant



Q-Bayは、オープンエアーが気持ちいい気軽に立ち寄れる居酒屋です。一日の疲れを感じに来ませんか。
焼き鳥は100年続く秘伝のタレと、塩からお選び下さい。長時間コトコト煮込んだこだわりのラーメンもどうぞ。
ランチメニューは ラーメン、弁当など 全品200ペソ以下でご利用いただけます。
☎ 032-401-0402 ✉ qbayresto@gmail.com 📍 Q-Bay restaurant
Dinner 4:00pm-11:00pm / Lunch 11:00am-3:00pm / Bar 3:00pm-11:00pm
IT Park

エメラルドグリーンダイビングセンター
Emerald Green Diving Center

☆☆ ジンベエツアー開催 ☆☆

日本人インストラクターが5人常駐!!ダイビングが初めての方やお一人で参加される方にも安心。少人数、安全そしてきめ細かなサービスで快適なダイビングを約束♪またセブ島の南サンタナダー、モアルポアル、ボホールにも支店(もちろん日本人インストラクター常駐)がありますので、マクタン以外の海を潜りたいダイバーの方は、ぜひこちらにも潜ってみてはいかがでしょうか?

電話:(032)495-7728 or 495-8372
携帯:0917-321-6349(日本語可)
場所: Anemone Resort 内
Buyong, Maribago, Lapu-lapu City,



特典

セブ島通信を見て事前にダイビングをご予約された方オリジナルTシャツ贈呈&ランチ無料!
プロモ期限:当セブ島通信発行年月より1年間

セブ島を100倍楽しむための
オプションツアーの選び方



セブ在住だけでなくセブやボホールの観光をしたことがない、日本から友達があるので、一緒に出かけたいけどガイド出来るほどよく知らない、などお悩みの方は、是非とも弊社までお尋ね下さい。
格安料金でのホテル手配やオプションツアー手配など様々なプランのご相談を賜ります。アイランドピクニックから市内観光、ボホールツアー、楽しいツアーをご用意いたします。

PTNトラベルはココが安心!



フィリピン政府観光局認定の正規旅行代理店
日本人スタッフ増員だから何かと安心
日本人スタッフの親切丁寧な対応が、旅行のトラブルでもすぐに対応します。
現地で観光客の安全を第一に考え、ガイドがご案内

まずは気軽に日本人スタッフ 直通ダイヤル 0917-622-0373
までお電話してみてください。



PTN トラベル PTN TRAVEL CORP.
(032)-340-7910/495-8521
c/o Shodou Jyuku Brgy, Lapu-lapu

オプションツアー

セブ市内観光 US \$ 60
アイランドピクニック US \$ 80
ボホール島1日観光 US \$ 120
みどころツアー(夜景観賞) US \$ 55
ナイトシティツアー US \$ 55
わくわくマクタン島めぐり US \$ 30
カワサンフォールツアー US \$ 95
ニューハーブショー&ディナー US \$ 55
ジャングルラビーチツアー US \$ 95~

その他多数、用意しています!!上記料金は、大人一人の料金です。子供料金もあります。セブの海を楽しみたい方、お気軽にお問い合わせ下さい。

イベントのお知らせ
募集



神楽 KAGURA

本場・本流・本舞

当店は、お風呂おマッサージを併設する居酒屋です。セブに在住の日本人はもちろん、ツーリストや地元セブの方々にもご好評を頂いております。無難な接客です。店内ならどこでもインターネットに接続できるなど、嬉しいサービスもご用意しています。

メニュー

●ねぎま ●ぎょうざ ●刺身盛り合わせ
●ラーメンほか250種類以上のメニュー

営業: 朝10時から深夜2時まで

お仕事やゴルフ、ダイビング後のリラックスなどに最適です。一日の疲れを身体を当店自慢のお風呂でゆっくりとほぐし、マッサージサービスもあわせてご利用くださいませ。



Tel. No.: (032) 346-0088
A.S. Fortuna Street, Maribago, Cebu

イベントのお知らせ
NPO Sevenspirit 4th Summer concert (5月22日)
セブ市役所 4F

Hi! Good Day!. I'd like to invite you to our upcoming recital. Children practice very hard during their summer class in music for this event.

Please come on May 22,2016 3pm at the 4th floor of Cebu City Hall. Entrance is for FREE!

We are going to play with Recorder ensemble, wind ensemble, string ensemble and voice ensemble.

This will be very soon. Thank you and see you there!

Music director.
Masaaki Nagata



CJS
だより

Since 1983, Cebu Japanese

新校長あいさつ
校長 松田和人

皆様こんにちは。本年度四月よりセブ日本人補習授業校の校長に任命頂きました松田和人です。

生まれは福岡で、セブには二〇十三年より約三年ほど居住しています。今回のご縁をいただき、初めてこのような貴重な役割を頂戴しました。小さい頃から先生になる夢を持っておりましたが、夢半ばで、違う道へと歩んで参った訳ですが、この役をいただいた事には、何か意味があると思っています。

セブにいらっしゃる大先輩より、補習校の今までの歴史や役割を伺い、海外における補習校の重要性を改めて感じております。

補習校は、帰国予定のご家庭のお子様にとっては学力維持のため、そして、こちらに長期居住されるお子様には、日本語と日本文化の継承の観点から、当校に通い、いろいろなことを学びつつ、友達の人間を育ってほしいと願って止みません。



卒業式

三月十九日、三時間目に、セブ領事館事務所の平澤領事、セブ日本人商工会の川野会頭、田中校長出席のもと卒業式が行われました。小学部六名、中学部六名が卒業しました。また欠席が三日以内の精勤賞として、原田ピンセントさん



に思うと同時に、どうすれば当校が生徒の皆さん、父兄の皆様、そして先生方にとり、良き学びの場、交流の場、そしてやりがいのある教えの場となりうるのかを関係各位皆様の声に耳を傾けつつ、精一杯努力させて頂きます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

入学式

四月二日、三時間目に、セブ領事館事務所の平澤領事、セブ日本人商工会議所の黒田理事、セブ日本人会の櫻井会長、松田新校長出席のもと入学式が行われました。二人の新入生が入学式に参加しました。少し緊張をしていましたが、二人とも名前を呼ばれると元気に返事をしていました。今年は四名の新入生を迎える事になりました。

田村フェイスメアさん、鈴木満慧さん、山田幸さんの四名が表彰されました。



子、J5林美恵子

ひな祭り

三月五日の三時間目にひな祭りを行いました。ひな祭りの



由来を聞き、みんなでひな祭りの歌を歌って、ひなあられを食べました。

新講師紹介

小学6年生担当
佐々木彩子

今年度より常勤講師となり、六年生を担当させて頂きます。佐々木彩子(ささきつやこ)と申します。宜しくお願い致します。

小学生最後の一年となりますので、一回、一回の授業を楽しく、有意義に生徒の皆さんと一緒に過ごして行きたいと思っています。

私の夫は、フィリピン人で、三人の子供達もフィリピンで勉強しています。色々な言葉を駆使しなければいけない環境は大変ですが、得るものも大きいと思います。補習校で学んだ事が、将来、何らかの形でお子さん達の役に立つことを信じて、取り組んで行きたいと思っています。至らない点

も多いと思いますが、ご父兄の皆さま、講師の先生方のお力をお借りしながら、努力して行きたいと思っております。宜しくお願い致します。

小学五年生担当
前田高洋

初めまして。今年の四月から常勤講師を務めることになりました。前田高洋(まえだたかひろ)と申します。担当は小学校五年生です。一年間熱意をもって楽しく教えるように心がけますので、どうぞよろしくお願い致します。私はセブに去年の六月から来ています。平日は語学学校で働いております。去年から非常勤講師としては、こちらの日本人補習校で時々教えてもいました。セブに来る前には日本で中学校の英語講師をしていた経験もあるので、今回常勤講師として教えるチャンスを得たことは大変嬉しい限りです。初めての小学生の先生で、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうか温かいご指導よろしくお願いします。

授業は算数と国語がほぼ毎回あります。日本に戻っても困らないように、特に漢字と計算には力を入れていきたいと考えてます。具体的に算数では百マス計算を取り入れ、早く正確に計算ができるように指導します。漢字では毎回小テストを行い、できるだけ多くの漢字が書けるように指導します。

また、日常生活の基本となるあいさつが毎回できるように、指導もしていきますのでご理解お願い致します。これから一年間期待と不安でいっぱいですが、精一杯頑張ります。

年間行事計画

- 4月 入学式
- 5月 PTA 総会
- 5月 こいのぼり
- 6月 全校体育授業
- 7月 七夕
- 10月 セブ大運動会
- 12月 クリスマス会
- 1月 新年会
- 2月 節分
- 3月 ひなまつり
- 3月 卒業式



Good
私のマヨーンな
ご近所
水野

フィリピンは常夏とはいえ季節はある。そしてセブは今がまさに暑い暑い夏真っ盛りである。
夏といえは祭りである。年がら年中、どこかで祭りをやっている印象だけど、ウチの近所は夏に集中している。
そして今年も我が家周辺の祭りの季節が始まったのであった。

祭りは一日だけだが、部落によつてはいつまでも祭りの雰囲気を引きずっているところがある。
大音量のディスコなんぞは当日だけでいいと思うが、場所によつては数ヶ月前から毎週土曜日に行われる。
ジブニーで前を通るだけで健康被害が出そうな爆音を毎週、聞かなければならなくなつたらおそろしく気が狂つて誰か、もしくは自分を傷つけてしまいかもしれない、と常々思っているの、こんなところに住んでいなくてよかったと心から思う。

しかし単に特定の部落だから数ヶ月前から毎週ディスコをするわけではないらしい。要するにその祭りを仕切る人によるのだそう。どういう基準で祭りの実行委員長が決めるのかはよくはわからないが、それなりのステータスがないと選ばれないそう、で、名誉なことらしい。
その実行委員長の気合の入れ方によつて祭りの様相が決まるのだ。
三月の中旬頃から、子供た

ちが近所の親戚のたちと連れ立つて隣の部落の夜店に遊びに行くようになった。隣の部落の祭りは確か四月の初めだが、もう祭りの夜店が出ているという。

夜店といつても日本のような金魚すくいだのりんご飴だのという風情のあるものではなく、容赦なく現金をかけるギャンブルが中心であるため、毎晩、「お金ちょうだい。」と言われる。

物事の良い悪いもわからぬうちからこういうギャンブルに熱狂するのはどうかと思うし、そもそも法に触れることはないのか、と心配した時期もあるけれど、郷に入れば郷に従え、だ。

いや本当のことをいえば、彼らの父親も根つからのギャンブラーで、半ば遺伝であると言っている。

そのへんの感覚は我ながらおかしくなっていると思つながら、毎晩、小銭をいくらかやつてしまっている。

帰つて来て「どうだった？」と聞くと、口をへの字のして首を振る。

途中までいい調子に勝ち続けていたが、最後と決めた勝負で全額負けた、という。そして、勝つた時に止めていれば絶対に負けることはなく、引き際が肝心だ、などとその道を極めたようなことを小学生の分際でのたまう。

大金を当てた日には興奮冷めやらぬ様子で話をしてくれるが、勝てば勝つたで、周りの親戚連中に取られてしまうらしく、私のあげる重資金が返ってきたためしはない。

隣の部落がすでに祭りモードになつて久しく、祭りの当日になる頃にはさすがに飽きるのではないかとハタから見れば思うが、そんなことはまったくなく毎晩出かけていき、

祭りの当日には知り合いの家をハシゴし豚の丸焼きを食べ、祭りの後にはミスコンだのオカマショーだの寸劇だのがあるとあいかわらず毎晩嬉々として出かけていき、それがようやく終わる頃には次の部落へと足を伸ばすことになる。

我が部落の祭りももうすぐだ。そういえば昨年のことだが、部落の小さな教会の隣にある夫の祖母の家の電気代がある時突然、跳ね上がったことがあった。

夫の祖母はすでに亡くなつており、その家にはもう誰も住んではいないが、併設されているサリサリストアを経営している叔母さんが電気代を払っていた。

普段の三倍以上の請求に驚いて原因を調べたら、祭りの時にどこからやつて来る屋台の電気がこの家から取られていたそう。

盗電かと思いきや、実は姑が各屋台の主には承諾を出し、しかも電気代を受け取っていたとか。

それなら姑に電気代を請求しろ、と泣きそうな顔で我が家を訪れた叔母さんに言ったが、姑、「金はすでに使つてしまわない。そんな前の話をされても困る。」と逆ギレされたそう。

最近では姑の言動には呆れるのを通り越し、むしろ人生の師と仰ぎたいと思うことさえあり、私はそれ以上は何も言わず、この電気代を叔母さんに渡した。

我が部落の今年の実行委員長が誰なのかは知らないけれど、なまじ気合いの入つた人でなければいいなあ、と密かに願っている。

女 36 歳 セブ島で楽しく明るい貧乏生活

DAREDEMO HERO スタッフ JUNKO

日本人にとって常に暑いこのセブで、本格的な「夏」がスタートします。4月から子供たちは2か月間の長期休暇に入ります。毎年この時期になると、どこからともなく聞こえてくる爆音、そして数字を読み上げる大声。そうです！「フィエスタ」のはじまりです。この「フィエスタ」は、「ローカル賭博場」と言っても過言ではありません。規模が大きいところは、移動遊園地のようなちょっとした遊具施設も併設しています。そして、「フィエスタ」はなんの情報もなく、突然現れます。実は今現在HERO'S HOUSEの目の前にこの「フィエスタ」を始める準備が進んでいます。思い起こせば、昨年の夏のことです。毎晩2時過ぎまで聞こえていた爆音、そしてビンゴの数字を読み上げる大声。花やしきの恐怖を感じるジェットコースターや観覧車から響き渡る悲鳴。毎晩眠れぬ夜を過ごした、あの「悪夢」の再来です。この場所は、長年空き地だったため、毎年のように「フィエスタ会場」として、大いに盛り上がっていました。しかし、今年はその場所に大型ショッピングモールが建設され、空き地も整備されたため、「今年の夏は静かに過ごせる」と安心してた矢先の出来事。正直ちょっとショックを受けています。しかし、ここはフィリピン。そんなことに文句言っても何も変わらず、むしろ文句なんて言ったら、「何言ってるんだ、この日本人」という目で見られるのは、百も承知です。フィリピンで「明るく楽しく」生きていくためには、この文化も受け入れるしかありません。家にこもって「うるさい、うるさい」と嘆いているよりは、フィリピンマインドで「楽しい場所には参加する！」という気持ちが大切です。1ペソから賭けられるルーレット、5ペソから参加できるビンゴ。そこで一喜一憂するフィリピン人を眺めていると、小さなことでイライラしている自分がバカバカしくも感じられます。今年もHERO'S HOUSEの目の前で開催されるフィエスタ。「うるさい！」と思うのではなく、一緒に楽しんで、フィリピン流の「夏の夜の過ごし方」を満喫したいと思います。



広告掲載のお礼

この度フリーペーパー各社（クーポン、咲楽、セブポット様）のご厚意により日本人会の情報、お知らせを無料で掲載していただくことになりました。いろいろな情報がたくさんの方に発信できるようになり関係者一同喜んでます。この場を借りて御礼を申し上げます。

セブ日本人会 会長 櫻井絹恵



★セブ島通信に記事を掲載したい方は「メール：info@ja-cebu.com」迄、お問合せください。
★セブ島通信では、発行日（奇数月の月初）の1ヶ月前を締切として原稿を公募しております。